

平成30年7月20日

京都市立百々小学校
校長 新田 淳
PTA会長 狩野 隆幸

児童の安全を守るために

梅雨明けとともに猛暑となり、太陽が照りつける日々が続いています。保護者の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は、本校教育推進に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、熱中症が心配されていますが、本校でも冷房や扇風機の活用、水分補給、気温が35度以上になった場合の外遊びの制限など対策をしています。寝不足や朝食を摂らないと暑さに対応できることもありますので、基本的な生活習慣を整えるよう、各家庭におかれましても健康管理に努めていただきますようご協力、よろしくお願いします。

来週から夏季休業が始まり、家庭・地域で過ごす時間が増えます。熱中症をはじめ、病気やケガにならないよう、また今一度防犯などについて、各家庭におかれましても、お子たちと話し合っていただきますよう、よろしくお願いします。

熱中症の危険

(1) 対策

- ・暑いときの活動には十分注意を払い、休息と水分補給を頻繁に行う。
- ・長時間の運動で汗をたくさんかく場合には、塩分の補給する。
- ・体調の悪い時（睡眠不足、下痢等）は、活動を軽減する。
- ・通気性・吸湿性のよい服装や直射日光を遮る帽子の着用等に心がける。
- ・具合が悪くなった場合には、早期に活動を中止して、手当をする。

(2) 応急手当

- ・応答が鈍い、言動がおかしい、意識がないといった意識障害がある場合は、直ちに救急車を要請する。
- ・高い体温の場合は、不要な衣服を脱がせ、水をかけたり、濡れタオルを当てたりして、うちわや扇風機などで扇ぐことにより、積極的に体を冷やしながら、直ちに救急車を要請する。
また、頸部や脇の下、足の付け根などの大きい血管を冷やす。
- ・安全で風通しのよい日陰や、できればクーラーが効いている室内などに避難させ、衣服を緩めて寝かせ、呼吸をしやすくする。
- ・水分と塩分（スポーツドリンクや経口補水液など）を補給する。
熱けいれんの場合は生理食塩水（0.9%）などの濃いめの食塩水を補給する。

★学校では、気温が35度を超える場合など、暑さ指数（W B G T）も考慮しながら、体育・部活動など原則屋外の運動を中止したり、夏休み中の運動場の開放も中止したりするなどの対応をとります。また、活動時間を短くしたり、こまめに給水補給したりするなど臨機応変に行います。夏休み中の部活動についても、時間を短くする場合があります。屋内の部活動についても給水時間を増やしたり、活動時間を短くしたりする場合があります。

家庭・地域におかれましても、規則正しい生活（早寝・早起き・朝ごはん）を行うと共に、水筒の持参や外での活動時間に制限を設けるなど熱中症などの予防、お声かけよろしくお願いします。

川・用水路の危険

校区内の川は遊ぶ川ではありません（山科区内で遊べる川は有りません）。多くが、田畠の用水路として使われています。物を投げ入れたり、中に入って遊んだりしてはいけません。

夏休み中、川遊びにでかける場合も、水難事故を防ぐよう十分注意してください。乾いた川原でも、増水時には水がくる場所がたくさんあります。中州で取り残されたニュースも毎年夏休みに見ます。急な大雨が降ることも多いですので、大雨洪水注意報や警報が出たらすぐに避難をし、パトロールの人たちや警察・消防、河川管理者の注意には必ず従いましょう。

川に入る場合は、ライフジャケットの着用などの準備が必要です。大人の皆さんのお配り、心配りで水難事故を防ぎ、安全に過ごしていただけたらと思います。

自転車の点検や交通ルール

【走行前の点検】

- ・タイヤの空気は大丈夫か。
- ・ブレーキは効くか。
- ・サドルはまっすぐか。
- ・ライトは点灯するか。
- ・高さは両足が届く位置にあるか。
- ・反射板はついているか。

【交通安全】

- ・左側通行をする。歩道を通る時は歩行者優先。歩いている人に道を譲ろう。
- ・赤信号・停止線では確実に停止する。走行を開始する時は、安全確認をしよう。
- ・二人乗りや手放し運転など危険な乗り方は禁止。並んで走るのも禁止。
- ・スピードは出しすぎない。危険を予測して走ろう。
- ・横断する際には右・左の確認をする。
- ・夜は必ずライトをつけよう。
- ・ヘルメットをかぶろう。



など、交通のルールはたくさんありますが、気付いたことから教えていきましょう。

防犯対策

- ・知らない人に声をかけられても、絶対について行かない。
- ・朝は集団登校で登校する。帰りはできるだけ近くの人と一緒に下校する。寄り道をしない。
- ・おかしいと思ったり、身の危険を感じたりしたときは、大声で助けを求め、防犯ブザーを鳴らすなどする。また、「こども110番のいえ」や近くの民家に助けを求め、「110番」通報をお願いする。
- ・出かけるときは、「だれと、どこへ、何をしに、いつ帰るか」を家の人に伝える（外出の際には、防犯ブザーを携帯する）。5時頃には、家に帰りましょう。
- ・さびしい所や危険な所（川や池など）では遊びません。校区外へは大人の人と一緒に行く。
- ・家の用事がないかぎり、スーパーマーケットや商店、コンビニエンスストア・ディスカウントショップへ行かない。
- ・心配なことがあったら、かくさずに家人や学校の先生に話しましょう。

万一、不審者等で気になることがありましたら、警察（山科署 575-0110、百々交番 594-0110）に通報された後、学校（593-3250）にもお知らせください。よろしくお願ひいたします。

虫などの危険

ヒアリについての報道を連日耳にしますが、危険な生き物はヒアリだけではありません。特に草むらや山などでは、注意が必要です。例え毒性が強くなくても、個人差や体調によってもひどくなることがあります。

スズメバチ

スズメバチにもいろいろな種類があるのですが、そのほとんどが毒を持ち危険です。特にオオスズメバチやキイロスズメバチなどは、凶暴な性格で攻撃性が強いです。出会ったらじゅうぶんに気をつけなければいけません。

イラガ

カキ、サクラ、カエデ、ヤナギ、クリ、ナシ、ウメ、クヌギなどの木に付きます。毒があるのは幼虫だけで成虫は無毒です。幼虫は2cmぐらいですが、体に多くのとげがあって、これに触ると激しい痛みを感じます。

ムカデ

毒性は低いですが、噛まれると赤くはれ上がるとともに激しい痛みにおそれわれます。

セアカゴケグモ

最近外国から入ってきて大ニュースになりましたが、現在も国内で繁殖をしているそうです。毒性も強くないため、セアカゴケグモ初上陸の頃やヒアリのように過敏になる必要はないようですが、針で刺した痛みを感じ数日続くそうです。

マムシ

頭は三角形で太く短いぐるぐるとした体型の蛇です。黒っぽい色をしていま。背中には特徴的なだ円形のもようがあります。

刺された・咬まれたと思った場合は、できるだけ早く病院で治療を受けましょう。

